

12.前年度からの引継ぎ事項

引用議案番号： 02-01F-1224S

引用議案名： 未来を思いまに誇りを持つ青少年育成運動の推進 年間事業報告(案)承認の件

【準備について】

事業に学生が参加してもらうためには、「楽しそう」と興味を持ってもらうことや、参加することで得られるメリットを明確に伝えることが重要です。また、学校関係者に対しては、青年会議所の事業に参加することで、学校教育では得られにくいスキルをどのように磨けるのかを

- 1 引継： 示すとともに、保護者への説明など学校側が想定するリスクについても十分に考慮していることを伝えることで、協力を得やすくなります。そのため、企画書や募集チラシの作成にあたっては、理事会構成メンバーをはじめ、委員会メンバーでしっかりと精査し、万全の準備を行うよう心掛けてください。

対応： 理事会及び委員会で精査し、万全の準備をします。

検証：

普段の事業で使用しているPPTなどの資料は、大人向けのレイアウトや構成が中心であり、学生にとっては理解しにくい内容になっている可能性があります。資料作成にあたっては、普段のフォーマットとは異なるデザインを採用し、生徒にとって分かりやすい内容を目指してください。また、イラストを積極的に活用し、言葉の言い回しを工夫することで、伝えたいポイントを明確にし、より分かりやすい資料作りを心掛けてください。

- 2 引継： のフォーマットとは異なるデザインを採用し、生徒にとって分かりやすい内容を目指してください。また、イラストを積極的に活用し、言葉の言い回しを工夫することで、伝えたいポイントを明確にし、より分かりやすい資料作りを心掛けてください。

対応： 分かりやすい資料作りを心掛けます。

検証：

事業全体のシナリオに拘り過ぎると、打ち合わせや練習が不足し、棒読みになってしまう恐れがあります。また、セリフのように受け取られる展開になると、学生の興味や関心が急激に低下する可能性があります。参加生徒の主体性を育む内容で事業を構築する際は、主役は常に生徒であるべきです。そのため、大人が主導し、生徒が従うような状況にならないよう、一緒に考えるための余白の時間を設けるなど、柔軟な事業構築を意識してください。

- 3 引継： 下する可能性があります。参加生徒の主体性を育む内容で事業を構築する際は、主役は常に生徒であるべきです。そのため、大人が主導し、生徒が従うような状況にならないよう、一緒に考えるための余白の時間を設けるなど、柔軟な事業構築を意識してください。

対応： 生徒が常に主役になれるよう、自ら考える時間を設け、柔軟なシナリオを構成します。

検証：

JCが行う青少年育成と外部団体が行う青少年育成の大きな違いの一つは、関係者の多さと多様性にあります。数十人に及ぶ異なる業種の多様な人財が、長期間にわたり1つの事業で青少年育成を行うのは、青年会議所ならではの特徴です。他団体では、少人数の大人が主にに関わり、必要に応じてスポットで講師を招くケースが多く見られます。地域の多種多様な大人たちと関わる機会は、青少年にとって学びが多いだけでなく、まちへの愛着を深める貴重な体験となります。これらの視点を踏まえ、事業構築の参考にしてください。

- 4 引継： 必要に応じてスポットで講師を招くケースが多く見られます。地域の多種多様な大人たちと関わる機会は、青少年にとって学びが多いだけでなく、まちへの愛着を深める貴重な体験となります。これらの視点を踏まえ、事業構築の参考にしてください。

対応： 地域の多種多様な大人たちと関わる機会をつくります。

検証：

チラシのデザイン性は募集に大きく影響する可能性が高いです。デザインには色んな人の意見を聞きながら拘ってください。

- 5 引継： チラシのデザイン性は募集に大きく影響する可能性が高いです。デザインには色んな人の意見を聞きながら拘ってください。

対応： 多くの人に意見をいただきながらチラシを作成します。

検証：

募集チラシを配布する際の印刷枚数は、可能な限り対象者全員に行き渡るようにしてください。学校側は一部だけ渡されてもどの生徒に渡すのかの対応に困ります。

- 6 引継： 募集チラシを配布する際の印刷枚数は、可能な限り対象者全員に行き渡るようにしてください。学校側は一部だけ渡されてもどの生徒に渡すのかの対応に困ります。

対応： 募集はキャラバンを中心に行います。

検証：

| | |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 引継： | <p>学校の教員は多忙なため、アポイントのタイミングは生徒の休み期間中が担当者となつたりやすいです。私立校へのアポイントは3月中に、県立校については頻繁に異動があるため、4月に入ってすぐにスケジュールを組むことを検討してください。</p> <p>対応： 私立へは3月中、公立へは4月にアプローチするよう議案に記入しました。</p> <p>検証：</p> |
| 8 引継： | <p>プレスリリースで中国新聞さんに掲載していただいたのは、学校は認識しており効果的でした。プレスリリースを積極的に活用するようにしてください。</p> <p>対応： プレスリリースを積極的に活用します。</p> <p>検証：</p> |
| 9 引継： | <p>4月に県立高校に事業説明で伺った際、半数以上の担当教諭（主に教頭先生）は新しく赴任された方々でした。赴任直後で非常に忙しく、また知り合いの生徒も少ないことから、県立高校では私立高校よりも動員が難航しました。県立高校の教諭は4月に特に忙しいため、募集期間を長めに設定する必要があります。</p> <p>対応： 募集期間を5月まで実施します。</p> <p>検証：</p> |
| 10 引継： | <p>本事業は公募による自由参加形式のため、対象の生徒の皆さんに自主的に参加していただくしかなかった。そのため、こちらから対象者に対して動員を促すアプローチの方法が限られていました。同じような形式で募集をする際は、学校の先生方に全面的に協力していただけるよう動員の依頼を行ってください。</p> <p>対応： 教諭との連携を密にします。</p> <p>検証：</p> |
| 11 引継： | <p>事業チラシに求められる要素として、まず手に取ってもらうためには、ぱっと見でキャッチーで興味を惹かれる内容である必要があります。その上で、参加してもらうためには、チラシからある程度事業の内容が分かる必要があります。しかし、この両立は完全には難しいため、チラシにQRコードなどを掲載し、具体的な内容はそこから遷移して確認してもらえるような導線を工夫する必要があります。今回の事業で使用したチラシにおいては、ぱっと見でキャッチーで手に取ってもらいやすいデザイン性は一定のクオリティを保つことができたと考えていますが、一方で、事業内容の具体性については少し分かりづらかったと考えています。チラシを作成する際の参考にしてください。</p> <p>対応： 興味を持ってもらう部分についてはキャラバンで、説明やQRコードの掲載についてはチラシを使うよう役割分担します。</p> <p>検証：</p> |
| 12 引継： | <p>過去の実績や継続事業であるかどうかを学校側は気にします。学校訪問時に持参する資料をしっかりと作り込んでください。</p> <p>対応： 学校訪問時の資料を入念に準備します。</p> <p>検証：</p> |
| 13 引継： | <p>PPTの作成方法、構成等については積極的にサポートを行う必要があります。その上で、高校生の個性や工夫が見えるようにしてください。</p> <p>対応： 個性を生かしながらサポートします。</p> <p>検証：</p> |

中間発表会までは、集大成事業に向けた計画が主な内容でしたが、中間発表会以降は、計画内容を具体化するための構築フェーズに入り、委員会としての進め方が少し異なります。具体的には、中間発表会までは生徒とのコミュニケーションを重視し、参加している生徒や関係者との関係を築きながら、生徒たちの自由な発想を引き出すことが重要でした。しかし、中間発表会以降は、生徒に成功体験を積んでもらうために、JCメンバーがサポートをしながら、生徒たちが計画した内容を実現するために、スケジュール管理なども含めてリードしていく必要があります。状況に応じて、JCメンバーに求められるリーダーシップが異なるため、委員会で生徒たちをどのように導いていくのか、しっかり協議を行ってください。

14 引継：

対応： 中間発表前後でのJCメンバーの役割の違いについて周知し、意識共有を徹底します。

検証：

生徒の参加率やその他の要因により、計画からズレが生じる可能性があります。計画通りに進められるよう、チームリーダーにタスク管理の重要性を考えさせ、スケジュールの組み立て方を教えることで、生徒が自ら調整できる力を身につけられるように育成してください。

15 引継：

対応： 委員会メンバーがメンターとなり、チームリーダーのスケジュール調整力を育成します。

検証：

ステージチームのコンテスト出場者募集活動は難航しました。その要因として、参加対象を1人に限定したことや、対象年齢を高校生のみに限定したことが挙げられます。また、募集期間が短く、全ての高等学校を訪問して生徒へ直接周知するにはスケジュール的に厳しい状況でした。さらに、企画内容に前例がなかったため、企画書と口頭での説明だけでは内容を分かりやすく伝えることが難しく、イメージが伝わりきらなかったことも影響したと考えられます。今後、コンテストのような公募形式で募集活動を行う際には、これらの課題を踏まえ、対象や募集方法を柔軟に見直し、内容を誰でもイメージしやすい形で伝えられる工夫を検討することが重要です。

16 引継：

対応： 公募のコンテストを実施する際には伝え方を工夫します。

検証：

大窪シゲキ様がパーソナリティを務める広島FMのラジオ番組「大窪シゲキの9ジラジ」に、今回PRチームの生徒がイベントのPRとして電話で生出演しました。また、集大成事業の実施後には、ステージやブースのリーダーをはじめ、その他の生徒たちもラジオ出演の機会をいただき、自主的に出演しました。この取り組みにより、多くの教育関係者や青少年に本事業を知っていただくきっかけを作ることができました。大窪シゲキ様は中高生を応援する番組を手掛けておられることから、コンテスト出場者の募集についても、もっと早い段階でラジオ出演を通じたPRを相談していれば、さらに効果的だった可能性があります。ご検討ください。

17 引継：

対応： PR依頼は早めに行います。

検証：

最初はそれほどやる気がなかった生徒も、事業が進むにつれて当事者意識が芽生え、主体性が育まれたことで、自ら焦りや責任感を感じるようになりました。「自分たちが動かなければ、この事業は成功しないかもしれない」という意識を生徒に持ってもらうことは、主体性を育む上で非常に重要です。そのため、次年度以降の事業構築においては、計画段階からこの意識を育てる仕組みづくりを意識して取り組んでください。

18 引継：

対応： 当事者意識がもてる仕組みづくりを意識します。

検証：

| | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 19 引継： | <p>生徒は学校教育の中で、まちの社会課題や計画について考えたり、発表資料を作成したりする経験は一定程度あります。しかし、自分たちで長期間にわたり責任を持って事業構築を行う経験はほとんどありません。そのため、高校生が考える計画内容には、想定不足の部分が多く見受けられました。JC側に求められる役割として、まず生徒自身に計画を考えてもらい、その内容の実現可能性を高めるために適切な助言を行うことが重要です。また、生徒はスケジュール管理の経験が乏しく、想定が甘くなりがちです。そのため、こちら側が裏でスケジュールをコントロールし、必要に応じてサポートすることが求められます。ただし、注意すべき点として、JC側がリーダーシップを発揮し過ぎると、生徒の成功体験につながらないため、生徒の主体性が育まれる前段階を除き、中盤以降は生徒自身が行動の起点となるよう事業構築をしてください。</p> <p>対応： 生徒の主体性とJCメンバーによるサポートのバランスに注意します。</p> <p>検証：</p> |
| 20 引継： | <p>事業の成功には、自分一人ではなく、周囲を巻き込みながらリーダーシップを発揮することが重要です。そのため、集大成事業を構築する際には、生徒が周囲や大人たちを巻き込む内容となるよう進めることで、リーダーシップ育成の効果を最大化できると感じました。事業構築の際にぜひ参考にしてみてください。</p> <p>対応： 生徒自身が周囲を巻き込めるよう事業を構築します。</p> <p>検証：</p> |
| 21 引継： | <p>高校生を子ども扱いせず、役割と責任を与えることが、青少年育成において重要だと考えます。事業構築の参考にしてください。</p> <p>対応： 高校生に対し個人として対等に向き合う意識を徹底します。</p> <p>検証：</p> |
| 22 引継： | <p>YouTubeに動画をアップロードする際は、必ず限定公開の設定を忘れないようにしてください。また、関係者に動画を共有する際も注意が必要です。事前に生徒や保護者から許可を得ていたとしても、トラブル防止の観点から、公開設定で誰でも視聴できる状態にするのはプライバシーの観点から適切ではありません。</p> <p>対応： 限定公開にします。</p> <p>検証：</p> |
| 23 引継： | <p>本年はLINE公式アカウントをさまざまな場面で活用しました。具体的には、募集段階での案内や生徒の出欠確認、生徒との個別のやり取り、生徒や保護者への情報周知、各種アンケートの配布など、多岐にわたります。このツールを活用することで、生徒と個人の連絡先を交換することなく連絡が可能となりました。さらに、生徒との個別のやり取りをスタッフ間で常時共有することが可能となりました。また、LINEの既読確認機能やLINE公式アカウントの対象にアクションを促す機能を活用することで、出欠状況やアンケート結果を効率的に把握することができました。特に募集活動においては、応募してきた生徒と確実に連絡を取り合える環境が整い、さらにLINE公式アカウントの活用によって、生徒の心理的安全性を確保することにもつながったと考えます。また、タグ別配信機能を活用することで、特定の条件に基づいた一斉配信を効率よく行えたことも、運営における負担軽減につながりました。こうしたツールの活用により、運営の効率化が図られたことから、今後もLINE公式アカウントをはじめとする効率化ツールの導入の検討を推奨します。</p> <p>対応： LINEを活用した効率的な運営をします。</p> <p>検証：</p> |
| 24 引継： | <p>学校や保護者に対しての連絡はこまめに行い、こちらの状況を常に把握しておいてもらうことが安心につながります。スタッフ間で担当を決めて連絡に漏れがないように体制を整えるようにしてください。</p> |

対応： 保護者に対する連絡体制をつくります。

検証：

25 引継： 他委員会を巻き込んで事業構築する際は、こういった生徒が事業に参加をしているかなどの情報共有の方法をスタッフや委員会間で協議をしてください。また、スタッフだけではなく委員会メンバーが率先して生徒やメンバーに対してリーダーシップを発揮することで、円滑な運営につながるので事前の準備やリハーサルは入念に行うようにしてください。

対応： 委員会間で情報共有し、事前準備やリハを入念に行います。

検証：

26 引継： 本年は他委員会を巻き込んで事業構築をおこなったことが、委員会メンバーの当事者意識の醸成につながり、全体の他の事業への参加率の向上にも良い影響を与えたと考えています。委員会運営の参考にしてみてください。

対応：

検証：

27 引継： 生徒の能力は対象年齢によって大きく異なるため、安易な過信は避けるべきです。事業構築においては、有識者の助言を参考にしつつ、生徒一人ひとりの実際の能力を慎重に見極めながら事業構築をするようにしてください。

対応： 生徒一人ひとりのカルテを作成し能力を見極めます。

検証：

28 引継： リーダーシップ育成事業の事業対象者の募集人数については、対象年齢や委員会メンバーの数、他の委員会とどこまで連携をした事業構築を行なっていくかにもよって、適切な募集人数は異なってくると考えます。対象者の募集人数を何人とするのが適切なのかについては、委員会で意見をしっかりいただいた上で精査するようにしてください。

対応： 募集人数について委員会で意見をもらいます。

検証：
